

NEWS LETTER

NO.35 2010.3.31



にほんごひろば岡本

発行：にほんごひろば岡本
〒658-0003 神戸市東灘区本山中町 4-18-22

☎078-453-5931

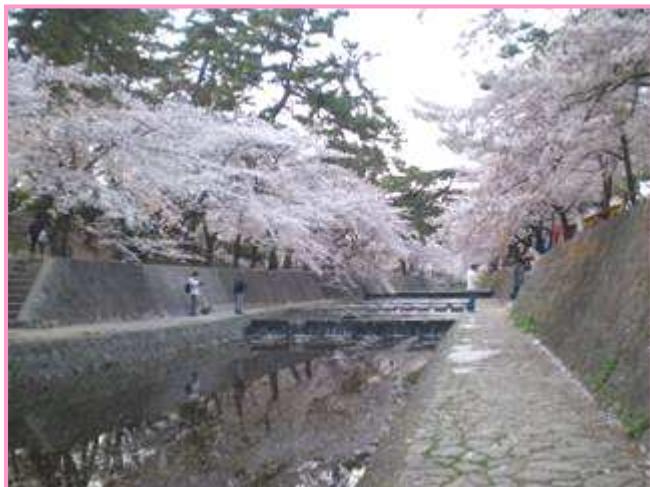
http://www.geocities.jp/nihongohiroba_okamoto/

わたしと松蔭生とひろばと

この題から金子みすゞの詩『わたしと小鳥と鈴と』を思い浮かべてくださる方があれば、その最後の一行「みんな違って みんないい」というメッセージはもう伝わっていますね。はじめから少々こじつけっぽくなりましたが、この 10 年のあいだに神戸松蔭女子学院大学の学生たちがどのように「ひろば」とかわり、どのように育ててもらったかを大学の教員の立場からちょっとスケッチしてみたいと思います。

私は、きっかけがあれば大きく羽ばたく可能性を秘めた学生たちの背中を押す役でした。実は学生にすすめている地域日本語教室は「ひろば」だけではありません。長田の神戸定住外国人支援センター、三宮の KICC をはじめ、三田市、姫路市などで活動している学生もいます。長く支援活動を続けるためには、通学経路から遠いところよりも近いほうがよいのです。ただ私は立ち上げからかかわった経緯から「ひろば」には特別の思い入れがあります。

10 年前に兵庫ボランティアネットワークの長嶋さんと代表の西村さんが大学に訪ねてこられて、新しく地域日本語教室を立ち上げるにあたって、日本語教員養成のコースのある松蔭の学生にぜひ参加してほしいとの申し入れがありました。現在全国の各大学は地域連携という名のもとに地元の方々とのさまざまな連携を模索していますが、東灘区にある「にほんごひろば岡本」との連携は行政が動き出す前に始まった地域連携の走りのようなものでしょうか。



以来、「うちの嫁にしたいわ」など好奇心全開のおばさんパワーに温かく見守られ、数多くの松蔭生たちが「ひろば」に参加してきました。最初は国文学科の日本語教育コースの学生ばかりでしたが、副専攻で日本語教育を学ぶ英語英米文学科、とりわけ児童英語専攻の学生が教員の方々の熱心な後押しもあって年々ふえてきています。昨年からはいつか外国で働いてみたいという夢を持った子ども発達学科の 1 年生も参加するようになっています。

はじめは「日本語を教える」ことにだけ目が向いていた学生も次第にボランティアとは「学習者が地域社会で豊かに自分らしく生きることができるよう支援する」ことだと気づきはじめるのですが、学生自身もまだ発展途上人であり日々変化しています。学習者との関係だけでなく、同じ支援者であっても年長者の方々というもう一つの異文化との出会いも経験することになります。「日本語」の使い手としてはまだ未熟な若者の言語行動に違和感をおぼえるという大人の声は昔から絶えることはありませんが、学生たちにとっては母語としての日本語やコミュニケーション能力が鍛えられる場もあるわけです。支援者という一面的な役割だけではとらえきれない地域日本語教室の別の顔が見えてきます。実は学生たちも“学習者”なのかもしれません。最近は中国、フィリピン、タイ、ベトナム、韓国などの年少者の学習者がふえてきて、お姉さん的な役割を期待されるようになり、頼りにされる場面も多くなってきたようです。だれかに頼られることで若者は大きく成長していきます。ご苦労も多いと思いますが、成長を身近で実感されるコーディネーターの方がうらやましくもあります。

大学卒業後に北京外国语大学日本語学科の助手、アデレード大学生涯教育部のTA、インドネシアのハサヌディン大学日本語学科のTAなど松蔭の協定校に行く人、日本語学校で非常勤講師をする人など日本語教育に携わる学生もいますが、卒業後も「ひろば」でボランティア活動をつづける人、卒業してしばらく「ひろば」から離れたあとに再び「ひろば」にもどってくる人、卒業して社会人になってはじめて「ひろば」に参加する人、「ひろば」での経験をいかして、卒業後に郷里で地域日本語教室を立ち上げる人など、「ひろば」の蒔いた種は確実にそだっています。これから先もいつの日か地球のどこかでこのボランティア精神が芽吹くときがあるでしょう。

私はこの3月で松蔭を退職しますが、学生の背中を押す役は後任に引き継いでもらいます。私自身は「ひろば」を卒業することなく、支援者交流会などでボランティア活動は続けるつもりです。これからも「わたしと松蔭生とひろば」がどう変わり、どんな新しい顔を持つようになるのか、現場で見続けたいと思っています。

(文：下田美津子 写真：朱晟秀)

学習者紹介

★李 効貞さん（韓国出身）

勉強熱心なビジネスウーマン

初めまして。安樂美希です。神戸松蔭女子学院大学の下田先生のゼミで日本語教育を教わり、今は日本語学校で日本語教師として働いています。

約4年前に下田先生に「にほんごひろば岡本」を紹介していただき、まだまだ未熟で学ばなければならないこともたくさんあるのですが、学習者と一緒にいつも楽しく勉強させていただいています。

今一緒に勉強しているのは、韓国から来られた

李効貞さんです。李さんは一昨年の10月に日本に来られ、大塚製薬で働いておられます。お仕事の都合でよく海外に出張され、今まで出張で行った



国はイギリス、ドイツ、韓国、マレーシア、……本当にたくさんの国に行かれています。中でもド

イツにはよく出張されるそうで、ドイツでのことをいろいろ話してくださいます。

日本に来たばかりの頃は全く日本語が話せなかった李さんですが、勉強を始めて数カ月でとても上達され、本当に驚いています。一緒に勉強を始めて1年半になるのですが、もう初級の教科書を使わなくてもいいのではないかと思うくらいとても上手に日本語を話されます。そして一回勉強したことは殆んど忘れず、毎回勉強の時は始まる10分前にはもうひろばに着いておられます。とても頭がよく勉強熱心で、真面目な方です。

これからも一緒に頑張って楽しく勉強していきたいと思います。
(安樂美希)

★趙 守春さん 范 玲さん(中国出身)

日本大好きな仲良し夫婦

趙さんは船会社に勤めるビジネスマンです。中国・大連から家族3人で日本事務所に転勤してされました。「日常、日本語はどんなときに使いますか?」の質問に「ほとんど使いません」と返事「エー····?」という、そんな会話から我々の付き合いが始まりました。昨年の3月から始まり、今年の3月に又転勤で大連に帰られる事になったので学習者の紹介というより思い出を書くことになりました。

彼は丁度、私の子供と同じ年頃であり明るく朗らかで品性もあり落ち着きもあり申し分のない学習者でした。

学習は『みんなの日本語』を使い、日本に来る



前に学習した内容の復習をしていました。

仕事の関係で出張が多く、学習は途切れ途切れで前回なにをしたか確認するのもたいへんでした。そんな状況から日本語の学習をするというより、男二人いろんな雑談をしていたと言えます。船に関してはいろんなことを教えてもらいました。

支援を始めてすぐに「新しい自転車がなくなりました。どうしたらいいでしょう?」と相談を受け、家にお邪魔しました。その時に奥さんからおいしい餃子をご馳走になり、そのお返しに私の家にも来てもらったり家内が餃子の作り方を教えて欲しいと又二人でお邪魔したりで日本語を教えたというより中国の友達と付き合ったと言うのが正しいかもしれません。

奥さんもご主人に負けず劣らずの奥ゆかしい聰明ないい人で、家内共々いい中国の友人ができたと喜んでいます。

だから、日本語を教えたとはとても言えない約1年間のおつきあいでした。母国にお帰りになり、更なるご活躍をお祈りします。

また、いつかどこかでお会いできることを!

(佐々木五十四)

趙さんの奥様の范 玲(ハンリン)さんを紹介しようと思っていると、残念なお知らせを受けま



した。帰国されるということなのです。

思い出話に変えます。一番印象に残っているのは、大変な頑張り屋さんということです。

わずか1年で『みんなの日本語I・II』を終了しました。練習問題や文型練習の宿題もちろんこなし、驚くばかりです。宿題の添削に追われる

日々でした。

日本食（お寿司・刺身）が大好き、日本の食器（刺身皿や湯のみを陶器市で入手）が大好き、奈良や京都が大好きという大の日本観戻です。

先日、日本の中国料理店では味わえない「鰯の水餃子」や「中華粥」「ピータン豆腐」などをご馳走になりました。料理上手なのも認識しました。

短いお付き合いでしたが、とても楽しい1年でした。

お二人のお子さんの乾澧（ジョー）くんは昨年末のお楽しみ会の飛び入り参加で鍵盤ハーモニカの演奏を披露してくれましたね。そのジョーくんが実は家族の中で一番日本語が上手なことを皆さんにお知らせしておきます。 （井畠眞理子）

しでも出来たらいいなと思っています。

学習内容は『初級日本語文法総まとめ』を使っています。

フリートークも出来ますので、それで知る彼女の日常はそれはそれはすごい行動力の持ち主です。たとえば、神戸に来てすぐのころ、1日で三ノ宮にどういうお店があるか探検したとか、神戸市主催のハイキングに参加したとか、積極的にいろんなことにチャレンジされています。

2009年12月からはアルバイトもされています。彼女の話を聞いていると私も元気になります。

学習を重ねるほど日本語の難しさ、教えることの難しさを実感しています。

私の方が新米の支援者で本当に申し訳なく思っていますが、これからもどうぞよろしくお願ひします。

☆倉本好恵さん

2002年3月から2007年3月まで、主人の仕事の関係で中国は広東省広州に住んでいました。広州での生活で、ずいぶんネイティブの方々にお世話になりました。自分も日本に戻ったら日本で生活する外国の方々の手助けをしたいと思い日本語教師養成講座で勉強し資格を得ました。去年の9月からにほんごひろばでお世話になっています。犬と馬が大好きです。

にほんごひろばで初めて一緒に勉強することになった学習者さんを紹介します。

中国 大連出身の李 雪莉さん（写真左）です。李さんのご主人は上海出身で、日本で2年間日

★西田由美子さん

はじめまして。

2009年8月からひろばに参加させていただいています。



私の初めての学習者は、中国（撫順）出身の久山純子さん（写真右）です。久山さんは日本に来て11年、東京で『みんなの日本語I・II』を学習され、ご主人（日本人）の転勤に伴い2009年春に神戸に来られました。

日常の会話には何の不自由もされていませんが、もっと上手に日本語を話したいということで、ひろばに来られました。そんな彼女のお手伝いが少



本語を学び日本の大学・大学院を卒業し、日本語能力試験1級に合格し日本の企業に就職されているそうです。

李さんも今は主婦と2つのバイトを頑張っています。能力試験も2級にチャレンジする予定です！

とっても優しく、気さくでしっかり者で女優の菅野美穂さん似の李さんです。皆さん、私たち二人をどうぞよろしくお願ひいたします。

☆松尾香奈子さん

はじめまして。

昨年秋から、にほんごひろばでボランティアとしてお世話になっています。

私が担当する学習者は、在日10年以上という韓国人のビョンさん。日本語教育について興味を持ち、学校に通って学んだものの、教えるのはほとんど初めての状態で、初めはどうなることかと思いましたが、今では、毎週土曜日にこの教室に来るのを楽しみにしています。

学習者のビョンさん（写真右）は、「日本にこんなに長く住んでいるのに、日本語が下手で恥ずかしいんです」と言うのですが、「たどたどしい日本語でも、一生懸命話そうしてくれている方が、私は好きですけどね。だから、ビョンさん、このままでいいですよ、ハッハッハ」なんて、支援者らしからぬ発言も、ビョンさんとだからできること。

まだ始めて数ヶ月ですが、学習者さんとの関係も少しずつ築けてきているかなと思うこの頃です。

にほんごひろばでは、学習者のみなさんが、ほんとに熱心に日本語を学んでいる姿を見て心温ま

ります。

実は、2年ほど前になりますが、私は、青年海外協力隊でスリランカに住んでいました。言葉も文化も違う国で生活するということ。なかなかの体力と柔軟性が必要です。そして、言葉というものはやはり重要だと痛感しました。言葉は生活上不可欠なものではありませんが、異文化を知り、彼らの生活を知り、彼らの思いを知り、異国の彼らと共に生きるには、やはり必要だったと今になって思います。そんな経験から、学習者のみなさんが一生懸命日本語を勉強している姿を見ると、とてもうれしくなってしまうのです。私たちの国や文化を受け入れようと努力してくれるんだな～っとホンワカ温かな気持ちに包まれます。まだまだ、日本語支援者として未熟者ですが、学習者のみなさんのほんの少し、手助けになればうれしいです。これからもどうぞよろしくお願ひします。



海 外 研 修 レポート

金田 英里

2009年春、卒業した神戸松蔭女子学院大学からの派遣で、2009年4月から11月まで、日本語のティーチングアシスタント（TA）としてオーストラリアのアデレードで日本語教育の研修をさせていただきました。松蔭の姉妹校であるアデレード大学との間で10年以上続けられている派遣プログラムなのですが、小学校、中高一貫のグラマースクール、社会人向けのクラスと、様々な日本語教育現場

に立たせていただくことができました。

ひと言で日本語アシスタントと言っても、機関によって学習者のニーズはばらばらですし、それぞれの先生の教え方も全然違うので、様々な角度から日本語教育について改めて考えることができました。アシスタントをするのは今回が初めてだったのですが、始まる前はアシスタントと言われると、先生の指示に従って先生をサポートするものだと思っていたのですが、実際にやってみると、予想以上に自分でアイデアを出して自ら動かなければならないことに気付かされました。というのも、普段は先生が一人でやっている授業に参加しているので、自分から動かなければ先生が授業をどんどん進めて、ぼーっとしている間に授業が終わってしまうのです。最初のうちは、これをやれ、あれをやれと次々言われないことに対して気が楽だったのですが、慣れてくるにつれて、このままでは何もしないまま研修が終わってしまうと思うようになり、それからは小さなことでも何か思いついたら積極的にアイデアを出すようになりました。自分が考えたゲームを生徒たちが楽しんでくれて、「またあのゲームやりたい！」と言ってくれることがとてもうれしかったです。

社会人のクラスでは、1回2時間の授業を数週間任せいただき、1つの課をまるまる一人で担当することもあったのですが、まだまだ説明がうまくできなかったり、ポイントをきちんと理解してもらえないこともったりして、反省の連続でした。それでも最後まで前向きに楽しく授業をできたのは、いつも授業のあとに片言の日本語で「楽しかったよ」「いい先生でした」などと声をかけてくれる温かい学習者の方たちがいたからです。

まだまだ日本語教師としては未熟ですが、自分にできることを探して、少しでも学習者の印象に残る授業をするように心がけました。彼らがこれからも日本語の勉強を続けて、いつか「あ、これは昔英里先生に習った文法だ！」と思いつく日が来ます。

2010年2月から、インドネシアの大学で日本語を教えることになっています。あまり歳の変わらない大学生に教えることに緊張していますが、また新しい経験ができると思うと今からとてもわくわくします。

※金田さんは在学中、ひろばで渡辺サツキちゃんを支援していました。身体に気をつけて、益々のご活躍を祈っています。

ここはまるで小さな地球みたい！

1カ月半の支援・見学を終えて

植木 朋恵

神戸市には、現在約4万4千人以上の外国人が住んでいるといいます。私は今まで、神戸では中国



の先生の教え方も全然違うので、様々な角度から日本語教育について改めて考えることができました。アシスタントをするのは今回が初めてだったのですが、始まる前はアシスタントと言われると、先生の指示に従って先生をサポートするものだと思っていたのですが、実際にやってみると、予想以上に自分でアイデアを出して自ら動かなければならないことに気付かされました。というのも、普段は先生が一人でやっている授業に参加しているので、自分から動か

なれば先生が授業をどんどん進めて、ぼーっとしている間に授業が終わってしまうのです。最初のうちは、これをやれ、あれをやれと次々言われないことに対して気が楽だったのですが、慣れてくるにつれて、このままでは何もしないまま研修が終わってしまうと思うようになり、それからは小さなことでも何か思いついたら積極的にアイデアを出すようになりました。自分が考えたゲームを生徒たちが楽しんでくれて、「またあのゲームやりたい！」と言ってくれることがとてもうれしかったです。



人以外の外国人と接したことが残念ながらありませんでした。

「はて、『日本語教室』ではどのような人がどのように学んでいるのだろうか、中国人以外の学習者にも会ってみたい」と、私は興味と好奇心が湧き、早速インターネットで『日本語教室』を検索しました。縁ありここ『にほんごひろば岡本』を見つけ、代表の西村先生へお電話したのが出会いの始まりでした。

私は現在、中国は黒龍江省のハルピンの東に位置する鶴西市にある大学で日本語を教えています。この1月と2月は長期休暇ですので、日本へ帰ってきており、長い冬休みを有意義に過ごしたいと思い、ここへ通わせて頂きました。図々しくも合計6回も参加させて頂くことになりました。

勤務先の大学では、「会話」の授業を4クラス（1クラス50人）担当しています。100の瞳を相手に授業をするのは、エネルギーも使いますし、集中させるのも難しいのですが、なるべく「みんなが分かる授業」を心掛けて、日々学生と接しています。黒龍江省は中国の東北地方に位置し、冬は想像を絶する極寒で、私はマイナス30度を経験しました。されど、その凍える寒さをほんわか温めてくれる、学生との触れ合いがあるおかげで、中国の北の果てでの生活を満喫できており、3月に学生と再会できる日が待ち遠しいほどです。

さて、私にとって未知の世界であった『日本語教室』。それが『にほんごひろば岡本』という教室の扉を叩き、開き、一步足を踏み入れてから、たった1カ月半だけで、実り多き、魅力ある世界へといざなってくれました。

様々な目的を持った、様々な国や年代の学習者に接してみて、毎回、新鮮な驚きと「ここはまるで小さな地球みたい！」と、それはそれはわくわくの連続でした。私は以前、神戸でも少しだけ日本語学校で教えていたことがありました。そこでの就学生は皆、中国人の二十歳前後の若者であり、日本の大学進学を目指していました。だから、ここは日本語学校とは一味も二味も違う刺激をもらえたのです。何よりも学習者と支援者との一対一での90分の学習形態を見せて頂いたのが勉強になりました。日本語を通して、教科書だけではなく、日常生活のことや、様々な事柄について日本と学習者の国との比較や、ざっくばらんな会話からも支援者が日本語を教えていらっしゃる姿を間近で見られたり、時に、私も会話に交えさせて頂いたり、自分より年上の学習者に初めて接することもできて嬉しい限りでした。そして学習者と支援者との信頼関係なくしてはできないだろう会話も垣間見られて幸せでした。ここで、出逢った人達に感謝の意を下記に述べます。

●マイアリンさん（フィリピン）・坂井晶子さん

私（写真中央）は坂井さんと共に、日本語学習が全く初めてのマイアリンさんの担当となり支援させて頂きました。ひらがな・カタカナの学習要望無しで、日本語ゼロの学習者に教科書『みんなの日本語』の英語版だけを使って教えるのは確かに難しかったですが、極力、私の発話は日本語だけにし、レアリア（現物）や教科書の絵を使って練習したり、教室にある物や自分の持ち物や教室にいる人を指してのQ&Aの練習に力を入れ、マイ



アリンさんにも多く質問してもらうように努めました。マイアリンさんは自宅で日本語環境にはいないにも拘わらず、驚くほど飲み込みが早く、数字や時間や曜日や値段など、すぐに答えられない悔

しがり、できるまで根気よく取り組む姿に私も気合いが入りました。私が褒めたときのマイアリンさんのあの屈託のない微笑みが忘れられません。私は学習者の「わかった！」という時の顔を見るときが何より嬉しくてたまりません。

マイアリンさん！私が次に日本へ帰国した際には是非、会いましょうね。

坂井さんとは、同じ趣味の合唱の話で盛り上がり、最後の日にはお昼までご馳走になり、たくさんお話ができた光栄でした。マイアリンさんを引き続きよろしくお願ひ致します。またお会いできる日を楽しみしております。

● 李さん（中国）・倉本さん

李さん・倉本さんの見学は初日にさせて頂きました。李さんの結婚生活のことや、お母さんや姉妹のことを涙をぬぐいながら話してくれたことが、今でも心に焼き付いています。また、その李さんの話に真摯に耳を傾け、時にアドバイスされている倉本さんの人柄の良さも、たった90分で伝わりました。そして、倉本さんが広州に5年滞在されていた時の話や、私の勤務地の東北地方と南方の中国人の気質や食べ物の違いの話にも、とても為になりました。中国は改めて広い国だと感じさせられました。

李さん！初めてあつた私に涙を見せながらも、懸命に日本語で話してくれてありがとう。仕事は頑張りすぎないで健康第一にして下さいね。因みに私も泣き虫なんですよ！

● パノムさん（タイ）・橋本さん

パノムさん・橋本さんには、私のために勤め先のタイレストラン「クワンチャイ」の話や勤務形態や、タイ料理について紹介していただきました。「クワンチャイ」には辛くない料理もあるということなので是非、食べにいこうと思っています。

● デーンさん（タイ）・中山さん

デーンさんは、お子さんの話をしてくれました。そして私の中国の生活について興味を持ってくれ、たくさん訊いてくれました。中山さんは私に気さくに話しかけて下さり、とても親しみを感じました。

● 朱さん（韓国）・宮武さん

私は、朱さんの日本語能力検定1級合格の吉報を宮武さんと一緒に聞いた時の、あの喜びは今、思い出しても胸が高鳴ります。本当におめでとうございます。朱さんが何度も「宮武先生のおかげです」と、宮武さんに感謝していた姿と、まるで我が子を見守る父親のように接しておられる宮武さんを拝見していますと、いい師弟愛が育まれているなあと、私は羨望の眼差しを向けて見ていました。

朱さん！日本へ留学してたったの9カ月で1級合格は本当に素晴らしいことですので、国へ帰っても大いに自慢し、これからも日本語を話して下さいね。

● 方さん（台湾）・佐々木さん

方さんの日本語は、日本のテレビを見て理解できるというだけあって、90分接しただけで、能力が高いと分かりました。また、方さんの鋭い質問は佐々木さんと私をうならせ、本当に参りました。自分の授業計画で進める授業とは違う、プライベートレッスンの怖さも感じました。

方さん！いい刺激をありがとうございます。是非、台湾に帰国しても日本語を話す機会を持ってくださいね。日本語に限らずまだまだ伸びるであろうあなたの可能性を大きく開花させていくことを願って止みません。

● カリンさん（スイス）・尾本さん

カリンさんは日本語の発音がとてもきれいだなあと、話し始めてすぐに感じました。また、日本在

住のスイス人が数少ない中で、カリンさんとスイスや中国の話や、カリンさんの家族の話ができる、とても貴重な時間を持てました。そして、尾本さんの落ち着いて、聞く者に安心感を与えるお姿に知らず知らずの内に心が和みました。持参の折り紙を通しての日本文化を伝えていたのも印象的でした。

● ワーリーさん（アメリカ）・尾本さん

ワーリーさんは、アメリカ人は「気さくでフレンドリー」という印象を証明するかの如き人でした。不意に聞かせてくれるワーリーさんの日本語のジョークは、何度かその場の雰囲気が心地良い「わらい」に包みこんでくれました。中国人との会話では味わえない新鮮な楽しさを私に与えてくれました。また、ワーリーさんの「これとこれはどう違うのか」と、疑問に思ったことは全て、英語を交えながらも懸命に尾本さんと私に訴える姿に日本語の難しさを再認識しました。

ワーリーさん！異国での暮らしは大変でしょうが、ユーモアセンスは朽ちていかぬよう、心より応援しています。

● 于さん（中国）・井畠さん

于さん・井畠さんの学習には3回も参加させて頂きました。于さんの料理教室へ通われている話や中国の話、そして何より、受験生の息子さんの話となると、于さんの息子さんを思う親心がひしひしと伝わってきました。優しさの中にしっかりと芯のある女性だなあと于さんと接して感じました。又、井畠さんの于さんが自然に話しやすいように会話を誘導している雰囲気作りや、会話の中での日本語の教え方は分かり易く勉強になりました。于さんの息子さんの話の中でも、私の受験生の時のこととも思い出させ、話させて下さいました。私に束の間、中学・高校時代のことを蘇らせ懐かしがらせて下さいました。

人と人との会話することは、時に、過去に想いを馳せたり、未来に新たな希望を持てたり、現在を力強く生きようと勇気を与えられたりするものだと、改めて実感しました。

★この1ヶ月半、『にほんごひろば岡本』という名の〈小さな地球教室〉で、佳き地球人にたくさん出会い、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。皆様、大変お世話になりましたありがとうございました。

2010年2月28日 バンクーバーオリンピック閉会式の日に

みんなのひろば

【2009年 年忘れお楽しみ会】

(2009年12月20日)

すっかり恒例になりました年末のイベント、年忘れお楽しみ会が12月20日、行なわれました。今年は今まで最高の96人の人たちが参加して、大盛況でした。

たくさんの食べ物・飲み物が用意され、にぎやかなテーブルになりました。

支援者の手作り料理のほか、学習者も自慢のお国料理を持ってきてくださいり、珍しい料理にみなさん大喜びでした。飲食・歓談の後、高山先生指揮「ボイス・アーツ・アンサンブル」のみなさんによるコーラスの披露。みんなで『ふるさと』を歌いました。ボイス・アーツのお姉さんたちは毎年ひろばに来ることを楽しみにして下さっているそうです。

次は「スピーチ大会」です。参加者は8人で興味深いもの、おなかを抱えて笑ってしまうもの、自作の小道具を交えての発表など、とても充実したものでした。最優秀者はフィン・アン・ダオさん、

「オーディエンス賞」は接戦の末、張 璞潔（チョウ・プージェ）さんに輝きました。スピーチの後は外部ボランティアさんによるパフォーマンスです。ヘルマンハープという新しい楽器による演奏、続いて、大道芸の南京玉すだれや皿回し、飛び入りの趙ジョーくんによる鍵盤ハーモニカと楽しい時間が過ぎていきました。最後は、みなさんが一番ヒートアップするゲームです。こどもたちが反射神経抜群で悲鳴や笑い声が会場に響いていました。

2010年はどんなパフォーマンスが登場するのか、今から楽しみですね。

【2009・12・20 スピーチ大会】

★スピーチ大会出場者の横顔

1. 吉松明子さん（シンガポール出身）

「不思議な話」



流暢な関西弁で身振り手振りいっぱいなスピーチ。トップバッターをしっかりと務めて下さいました。それにしても本当に不思議な話でした。



2. ラグパティ・ラジマセーカルさん（インド出身）

「インドのカレー」

インドのカレーは1種類ではないんですね。南インドのカレーを食べてみたくなりました。



3. 顧 則宇さん（中国出身）

「私のチャレンジ」

日本で2度の出産、子育て。ナイス・チャレンジです。



4. 李 雪莉さん（中国出身）

「母への思い」

独り暮らしのお母さんを遠く離れて思う気持ち、みんな涙していましたよ。



5. 韓 永植くん（韓国出身）

「韓国と日本の食生活文化」

同じ「箸」を使う国なのに、いろいろ違いましたね。現物でとてもよく分かりました。



6. フィン・アン・ダオさん（ベトナム出身）

「私の新しい仕事」

私は日本へ来たとき、国際救援センターで6ヶ月間、日本語を勉強しました。そして、神戸の靴をつくる工場でパートタイマーとして働きました。

もっと勉強したいなあと思っていたとき、お母さんの友だちが定時制の神戸市立楠高等学校のことを教えてくれました。思い切って入学試験を受けると合格しました。

昼間はパートをつづけながら、仕事が終わると一目散に自転車を走らせて学校へ行きました。日本語がまだよくわからなくて、勉強がとてもむずかしかったです。でも先生やクラスの友だちが親切に

してくれて、楽しい4年間を過ごすことができました。

今年の3月、楠高等学校を卒業して、尼崎にある「喜楽苑」という介護老人ホームに就職しました。そこで私はデイ・サービスの仕事を担当しています。お年寄りが相手ですから、ていねいなことばを使わなければなりません。例えば「おふろに入りましょうか・・・湯かげんいかがですか・・・」

この仕事はむずかしいことがたくさんあります。あるおばあちゃんは、ホームに着いたときから「家に帰る、家に帰る」といって、外に出ようとします。あるおじいちゃんは「おふろに入りたくない」といって私をこまらせます。でも、うれしいこともあります。アクティビティーといって、お菓子を作ったり、たいそうをしたり、習字をしたり、うたをうたったりするときは、みなさんいきいきとおられます。また、私をかわいがってくれる人がいて、「ダオちゃん、かわいいから、私のむすめになってちょうどいい」と言ってくれます。

私はまだ新人なので、わからないことが多いです。でも介護の仕事は大切な仕事だと思います。もっといろいろ勉強をして、この仕事をしっかりと続けたいと思っています。

今は仕事の帰りに「にほんごひろば岡本」で勉強することができるようになりました。

日本語がもっとうまくなりたいです。(原文のまま)

ダオさん最優秀賞、おめでとうございます。



7. 朱 晟秀くん (韓国出身)

「私の名前はいつでも笑っています」

ハングル文字で楽しくスピーチしてくれました。支援者の宮武さんを助手にして、満悦の様子でした。



8. 張 璞潔さん (中国出身) 「歳歳平安」

そいそいぴんあん、発音が同じなので、たとえ悪いこと(茶碗が割れる)が起きても良いほうに考えて。ポジティブはいいですね。

「オーディエンス賞」おめでとうございます。



★韓くん 朱くん さようなら

昨年秋のB B Qやお楽しみ会・スピーチ大会などで大活躍の留学生の韓くんと朱くんが、1年間の留学を終え、日本語の能力試験1級合格のお土産を持って帰国しました。朱くんからのメッセージ(原文のまま)を紹介します。

日本に留学するために、日本に来る日だけを考えた日がまるで昨日のようです。1年間の留学期間は「アッ」という間に過ぎて、もう帰らなければならない日が来てしまいました。日本に来ていい思い出を持って帰ることができるようにしていただいて、ありがとうございます。私の1年は短く見えるかもしれないですが、私に対しては大切な1年になりました。「1年、お世話になりました」「1年、ありがとうございました」

2010年2月24日 朱 晟秀（ジュ・サンス）

★柳原知美さん 卒業おめでとう

2010年3月20日、神戸松蔭女子学院大学ご卒業です。



★ラグ・パティさん 女児誕生 おめでとう

2009年8月8日生、Yazhini (ヤリニ)ちゃんです。



★李 俊瑠さん 男児誕生 おめでとう

2010年2月23日生、智博くんです。

■お知らせ■

【総会・支援者交流会】

2010年度 第11回の総会を5月に予定しております。総会に引き続いだり、支援者交流会を開きたいと思います。マンツーマンの支援のため、日頃なかなか、顔を合わせる機会が持てません。是非この機会にいろいろお話をしましょう。

CONTENTS

★卷頭言

わたしと松蔭生とひろばと（文・下田美津子 写真・朱晟秀） 1

★学習者紹介

李 効貞さん 2

趙守春さん・范玲さん 3

★支援者紹介

西田由美子さん・倉本好恵さん 4

松尾香奈子さん 5

★海外研修レポート 金田英里 5

★ここはまるで小さな地球みたい！ 植木朋恵 6

★みんなのひろば

年忘れお楽しみ会・スピーチ大会 9

韓くん朱くんさようなら…………11

柳原さん祝ご卒業・ラグさん赤ちゃん・李俊瑠さん赤ちゃん…………12

☆お知らせ12

[編集子のつぶやき] 2010 年も NEWS LETTER よろしくお願ひします。HP に写真を UP しています。(I・M)